

7 「嫌気性菌眼感染症研究のあゆみ」

— 第31回日本嫌気性菌感染症研究会を終えて—

大石 正夫・宮尾 益也*・阿部 達也*
 笹川 智幸*

白根健生病院眼科
 新潟大学眼科*

平成13年3月3日(土),新潟市の「有壬記念館」において,第31回日本嫌気性菌感染症研究会を主催した.全国より160余名の参加者で盛会裏に実りある研究会を終えることが出来た.

ここに眼科領域における研究のあゆみの概略を述べた.

本研究会は1971年(昭和46年)に発足してから,毎年1回開催されて来た.新潟大学医学部眼科では第2回研究会からこれに参加して,毎年眼科領域からの研究発表をおこなって来た.1978年,第7回研究会には,大石により「眼科領域における嫌気性菌感染症」の特別講演がなされた.近年,無芽胞菌である *Propionibacterium acnes* による白内障術後眼内炎が注目されている. *P. acnes* 眼内炎については,教室の永井,坂上による精力的な実験成績があり,世界的にたかい評価を得ている.今回第31回研究会が眼科の主催で開催されたことは,これらの業績によるところが大きい.

8 フソバクテリウムによる膿胸,肝膿瘍合併の1例

岩島 明・中嶋 治彦・村山 直也
 稲田 勢介*・金子 陽子**

長岡中央総合病院呼吸器センター内科
 同 消化器内科*
 同 検査科**

フソバクテリウム・ネクロフォルムを起原因菌とする,膿胸と肝膿瘍を合併した症例を経験した.72歳男性,2000年8月3日近医にて胸部レ線で異常影を認め,当科紹介された.胸部レ線で,肺尖部に塊状影と右中下肺野に胸水を認め,胸部CTでは,背側に多嚢胞性の膿胸腔を認めた.ま

た,腹部CTで肝臓にも低吸収域を認めた.胸水を穿刺し,黄白色で悪臭のする膿を採取し,それからフソバクテリウム・ネクロフォルムが培養された.これは嫌気性無芽胞陰性桿菌で壊死部,膿瘍,血液などの材料から分離されることが多く,牛の肝膿瘍の起原因菌としても知られている.治療は,抗生剤にPAPM/BPを用い,胸腔ドレナージと胸腔洗浄を行った.抗生剤治療を進めたところ,肝の陰影も改善した.

嫌気性菌は膿胸の起原因菌として頻度が高いが,肝膿瘍の起原因菌としては検出頻度が少ない.起原因菌の頻度的には,膿胸が原発で血行性に肝膿瘍を引き起こしたと考えられた.

9 *Chlamydia trachomatis* による Fitz-Hugh-Curtis 症候群の1自験例

川口 英弘・佐藤 友威・長倉 成憲*
 中塚 英樹*

巻町国民健康保険病院
 新潟大学第一外科*

症例は20歳女性.

【主訴】右季肋部痛と下腹部の圧痛.

【現症】11月6日下腹部痛が出現しその後右側腹部痛となり某内科医を受診.14日に38℃程度の発熱あり.16日に右下腹部痛と白血球増多(10300)にて急性虫垂炎を疑われ当科紹介され同日入院.

【入院時検査】白血球数が9020とやや増加傾向をしめしている他は,検血,生化学,電解質は正常.抗クラミジアトラコマティス抗体は陽性(IgA: 4.82, IgG: 4.40).

【臨床経過】入院時より一日MINO 200mg, FOM 4gを1週間投与.17日には腹痛強くソセゴンを使用.発熱や白血球数の増多は著明でなし. CRPは入院後3日目に2.2と上昇していたが,3日後には0.54と正常化.1週間で症状も消失したため23日退院となった.

【文献的考察】Fitz-Hugh-Curtis 症候群(以下FHCS)は1930年にCurtis, 1934年にFitz-Hughにより報告された生殖器感染に伴う肝周囲